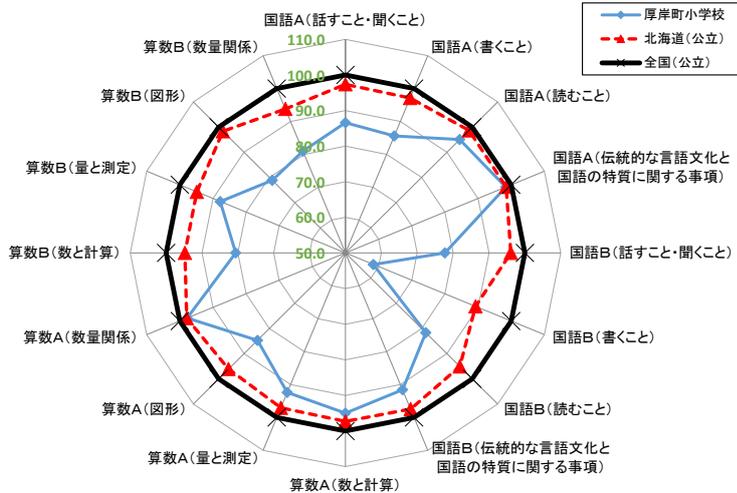


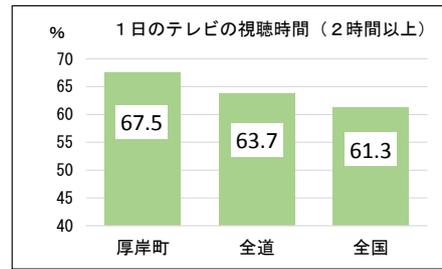
■ 厚岸町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:5校、児童数:83名)

【教科全体の状況】

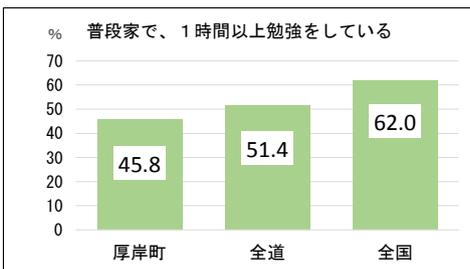
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



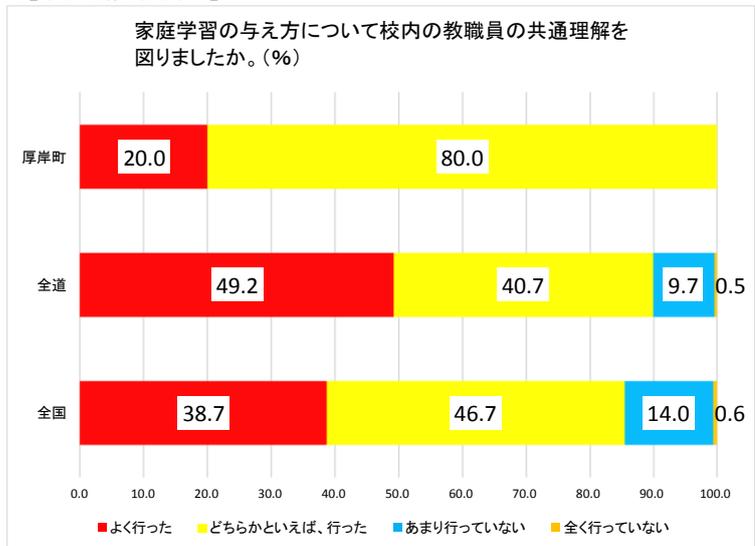
【児童質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語A「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、算数A「数と計算」、「数量関係」など、基礎的な内容を扱った領域の正答率が他の領域に比べて高い。発言の内容や意見をまとめて「書く」領域の正答率が低く、無回答率も高い。	○ 国語A及び算数Aの基礎的な問題の正答率が高いことから、反復練習に取り組んだ成果と捉えることができる。記述式の回答の正答率が低いことから、「読み取り」と「条件をもとに書く」ことが課題である。
児童質問紙	○ 家で学校の宿題をしている児童が増加傾向にあるものの、全国と比較して家庭におけるテレビの視聴時間は多く、学習時間や読書時間が少ない。	○ 宿題の定着率が高いことから、これからは学年相応の家庭学習時間を確保することや、学習の仕方を指導することが重要である。
学校質問紙	○ 家庭学習の課題の与え方について、「当てはまる」と回答した学校が少ない。	

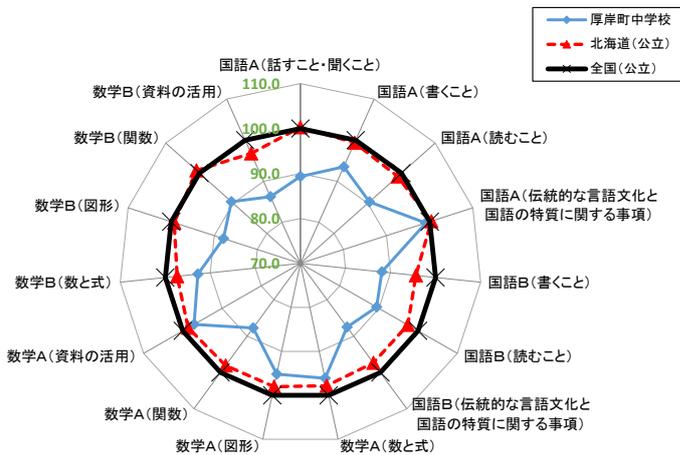
【厚岸町の学力向上策】

- ◎ 授業改善(反復練習の継続と、ノート指導を通した「書く」指導)の継続
- ◎ 安定した人間関係づくりの一層の構築
- ◎ 家庭での生活習慣の改善を図るための啓発活動の推進
- ◎ 町内の図書館と学校図書館の相互連携による読書環境の整備・充実

■ 厚岸町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:4校、生徒数:84名)

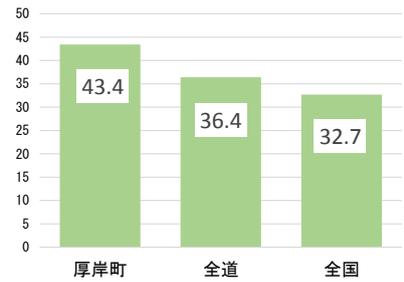
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

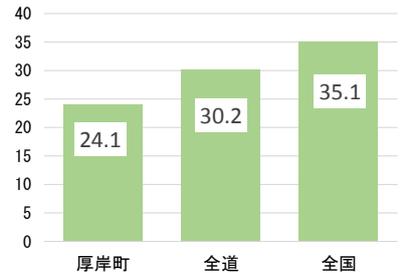


【生徒質問紙調査】

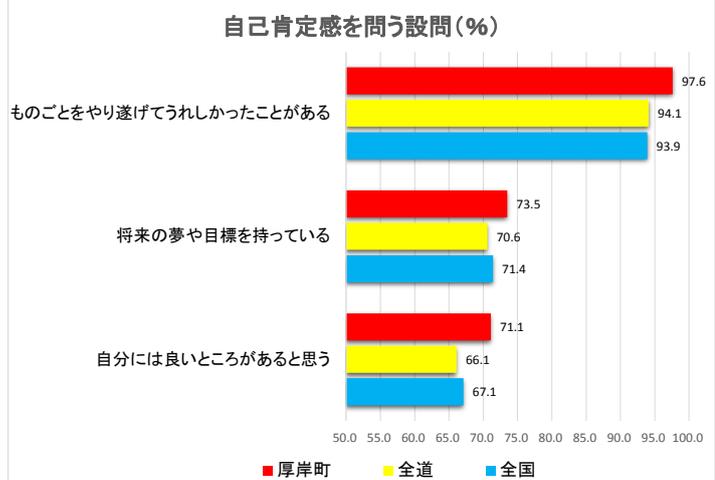
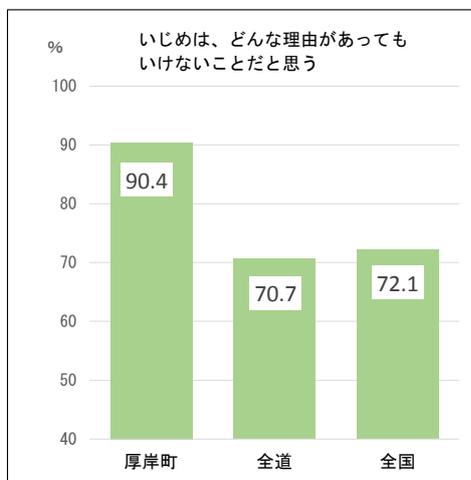
1日2時間以上携帯電話等を使う



普段家で、2時間以上勉強をしている



【生徒質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語A「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は他の項目に比べ高い傾向にあるが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の項目の正答率が低い。数学では、「数と式」「図形」の領域の正答率がともに他の領域に比べ高い傾向にあるが、「関数」の項目はABともに正答率が低い傾向にある。	○ 国語A及び数学Aの基礎的な問題の正答率が高いことから、反復練習に取り組んだ成果と捉えることができる。携帯電話などの使用時間が長いこと、家庭学習時間が少ないことから、家庭学習の量的・質的な見直しが必要である。
生徒質問紙	○ 「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と理解している生徒の割合が大きく、自己肯定感も高い。学習習慣は身に付いているが、量的・質的な改善が必要である。携帯電話などの使用時間が長い。	○ 自己肯定感や規範意識の高さから、安定した人間関係を基盤とした様々な取組が可能である。
学校質問紙	○ 家庭学習について、「家で2時間以上勉強している」生徒の割合は低いが、学習の仕方を継続して指導したことで成果が現れてきている。	

【厚岸町の学力向上策】

- ◎ 授業改善(反復練習の継続と、ノート指導を通した「書く」指導)の継続
- ◎ 安定した人間関係づくりの一層の構築
- ◎ 家庭での生活習慣の改善を図るための啓発活動の推進
- ◎ 小・中学校間及び家庭との連携を通した、携帯電話等の使用についての指導の継続